

A-STEP ステージⅢ NexTEP-A

JST(国立研究開発法人 科学技術振興機構)

A-STEPは3つのステージで構成されており、研究開発目標の達成までに必要となるそれぞれのフェーズに応じた異なる支援タイプによる研究開発を切れ目なく実施することが可能です。この中でステージⅢNexTEP-Aは、平成28年度は3回の公募期間を設け、通年で応募を受け付けています。

第一回：平成28年4月1日(金)～7月29日(金)
第二回：平成28年7月29日(金)～11月30日(水)
第三回：平成28年11月30日(水)～平成29年3月31日(金)

■企業の要件

(1)資本金3億円以下または従業員300人以下の自ら技術開発する会社 (2)大企業、上場企業、及びそれらの関係会社でないこと

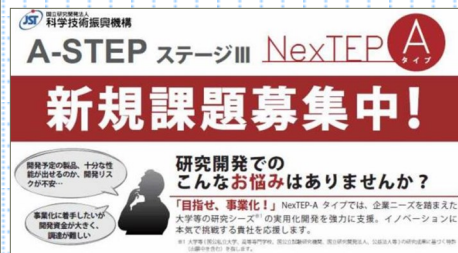
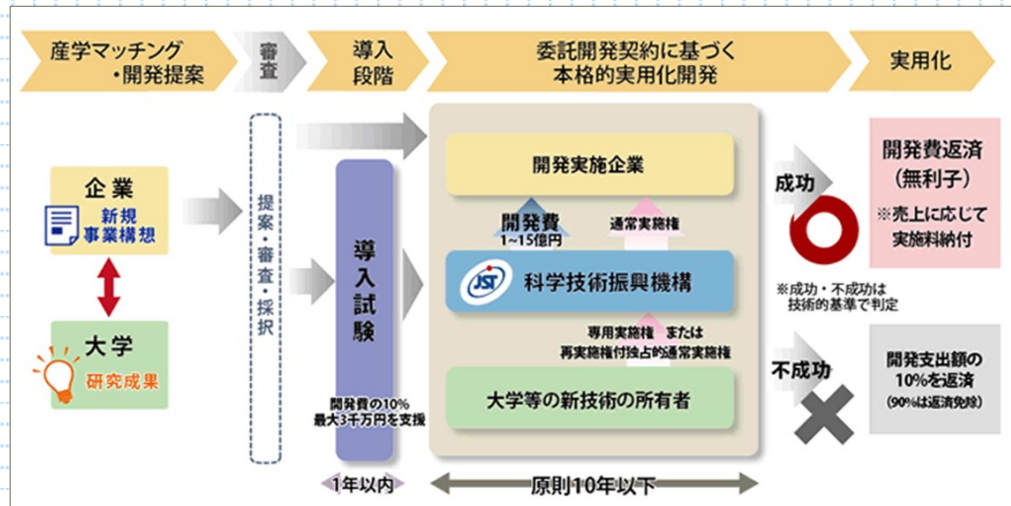
■開発技術の要件

(1)独創的な国産技術であること (2)実用化を目的とした開発試作であること (3)実用化の見込みがある技術であること

(4)開発予定期間が原則として1年以内であること ほか

■助成金額： 試作費合計額の2/3以下で2,000万円を限度

■問合せ先：(公財)新技術開発財団 TEL:03-3775-2021 FAX:03-3775-2020 URL:<http://www.sgkz.or.jp>



イノベーション・ジャパン2016

-大学見本市-

会 期：2016年8月25日(木)～8月26日(金)
開催時間：8/25(木) 9:30～17:30
8/26(金) 10:00～17:00

会 場：東京ビッグサイト西展示棟 西1ホール

主 催：科学技術振興機構(JST)

概 要：全国の大学等の技術シーズを一堂に集め、企業に紹介し、産学連携の推進・技術移転のきっかけとなる場を提供することにより、産業活動が活性化されることを目指す国内最大規模の産学連携マッチングイベントです。



やまなし食のマッチングフェア
2016 in TOKYO

【入場無料】

日 時：2016年7月21日(木) 10:00～17:00
場 所：京王プラザホテル 新宿、本館4階
(東京都新宿区西新宿2-2-1)

【発行 2016年6月30日】



国立大学法人 山梨大学
研究推進・社会連携機構
新技術情報クラブ事務局
〒400-8510 山梨県甲府市武田4-4-37
TEL:055-220-8754 FAX:055-220-8757
E-mail:renkei-as@yamanashi.ac.jp
URL:<http://www.scrs.yamanashi.ac.jp/>

大村智本学特別荣誉博士が山梨科学アカデミー交流大会で特別講演

平成28年5月30日(月)、ベルクラシック甲府にて、(公社)山梨科学アカデミー交流大会が開催され、会員・本学教職員・一般市民など約400名が参加しました。山梨科学アカデミーは、大村智本学特別荣誉博士が中心となり、次世代の科学を担う山梨県ゆかりの人材を育成するため平成7年に設立され、大村博士は現在名誉会長を務めています。大会の冒頭、奨励賞授与式が行われ、平成28年度は本田 剛 県総合農業技術センター主任研究員、芦澤 暁 県立韮崎高等学校教諭、中村勇規 本学医学部講師の3名が受賞し、本田研究員が受賞内容を講演しました。

【受賞題目】

- ・本田 剛氏「総合的な鳥獣害防止技術に関する研究」
- ・芦沢 暁氏「高等学校における課題研究の質を高める指導方法の確立とその実践」
- ・中村勇規氏「概日時計によるアレルギー反応の制御機構の解明」

大会の後半では、大村名誉会長が特別講演を行いました。生い立ちや学生時代などをユーモアを交えて振り返り、その節目に指導いただいた先生方からの言葉やご縁を大切にしてきた経験を述べました。



前田会長(左)・受賞3氏・大村名誉会長(右)

犬飼潤治 燃料電池ナノ材料研究センター教授が、島津製作所等とともに世界初の燃料電池解析装置を開発・販売

犬飼潤治 燃料電池ナノ材料研究センター教授が中心となり開発した、世界で初めての燃料電池内部の酸素濃度を深さ方向にリアルタイムで把握できる「FC-3Dモニタ FCM-3D-Oxy」がこのたび販売されることになりました。本製品は、科学技術振興機構のプロジェクト「燃料電池内3次元反応分布可視化装置の開発」(平成23～26年度)において、犬飼教授をプロジェクトリーダーとする3大学3企業(本学・株式会社島津製作所・早稲田大学・慶應義塾大学・みずほ情報総研株式会社・パナソニック株式会社)が開発に参画し、その成果をもとに、島津製作所が製品化したものです。犬飼教授は「本学の多くの教員・学生がプロジェクトに参加し、開発の中核になっていただいたことに感謝します。本装置が広く利用され、燃料電池開発をさらに促進させることを望んでいます」と述べています。



FC-3Dモニタ FCM-3D-Oxy

第1回 山梨大学大村智記念基金奨学金授与式を挙行政！

平成28年4月26日(火)、「第1回 山梨大学大村智記念基金奨学金授与式」を開催しました。「大村智記念基金奨学金」は、本学では初めての学部学生に対する「給付型」奨学金として、今年度新設した大学独自の制度です。ノーベル医学・生理学賞を受賞された本学卒業生・大村 智特別名誉博士の「若者の学業を奨励したい」との強いご意向を踏まえ、大村博士をはじめ、多くの皆様のご寄附による「山梨大学大村智記念基金」を活用して創設されました。今年度は、入学試験の成績を総合的に判断の上選考を行い、4学部の新入生15名に授与されました。授与式では、はじめに島田眞路学長から奨学生に目録と記念色紙が贈られました。記念色紙は、大村博士が奨学生のために書かれたもので、大村博士の大切にしている「一期一会」のお言葉が綴られています。続いて、島田学長が「大村博士が常々おっしゃっている“人と違うことをやれ”、“人の役に立つことをやれ”というお言葉を胸に刻んで、良き学生生活を送り、世界で活躍する人材となるよう頑張ってください。」と、天野 一全学同窓会長が「山梨大学に入学されたこと、大村智記念基金奨学生となったこと、このご縁を大切に、卒業まで心して勉学に励んでください。」と激励を贈られました。最後に各学部の代表学生から感謝の言葉があり、工学部代表の谷 海都さんは「大村博士がおっしゃったように、人と違うことを目指し、学業に邁進していきたいです。」と大学生活への意気込みを力強く述べました。



目録授与・記念色紙贈呈



第1回 山梨大学大村智記念基金奨学生

山梨大学特許最新情報

山梨大学が出願した最新特許情報につきましては、非公開の情報も含まれますので
会員 以外には公開しておりません。

産学官連携 TOPICS

杉本州次 日本銀行甲府支店次長が「山梨県の経済的課題」を講義

平成28年5月27日(金)、杉本州次 日本銀行甲府支店次長を講師に迎え、本学COC事業「地域志向型共通教育カリキュラム」の一環として、「山梨県の経済的課題」についてご講義いただきました。この講義は、全学共通教育科目「消費生活論」(担当:神山久美 教育学部准教授)の中で、外部講師を招き、グループ学習による「地域課題解決型」授業を目指すものです。杉本次長は、経済指標・用語や世界・日本経済の動向を分かりやすく解説し、山梨県の産業・県民生活・インフラ・行財政運営等を説明しました。その後、学生はグループに分かれて、平成27年12月に県が策定した「ダイナミックやまなし総合計画」における県経済の課題について、現状と背景を探り、活性化策を提言するグループ討議を行いました。各班は様々なアイデアを出し合い悪戦苦闘しながらも、ユニークな提言を発表しました。学生からは「講義や資料の内容が分かりやすく、山梨県を見つめ直すよい機会になった」「実際に提言を考えるのは難しかったが、興味を持って取り組めた」「学生など若い力をもっと活用すべきだ」と前向きな感想が多く出され、有意義な講義となりました。



講義する杉本次長

雇用創造に向けて「医療機器設計開発人材養成講座」が開講！

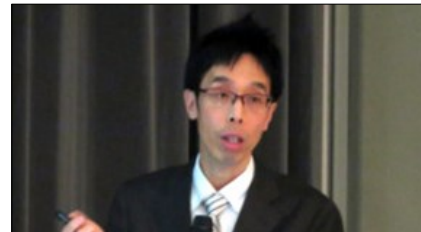
平成28年4月12日(火)、「平成28年度 医療機器設計開発人材養成講座」が開講しました。この講座は、山梨県と連携し、今後成長が見込まれる医療機器産業に関わる人材を育成し企業での事業化や雇用の創造を図ることを目的として、平成27年度から実施しています。今年度は、県内を中心としたものづくり企業の社会人技術者等19名の受講生を迎え、平成29年2月まで、全80コマ(120時間)の講義・集団討論や医療機器の体験・操作・製作実習などを実施します。同日の開講式では、島田眞路学長による開会挨拶の後、平井敏男 県産業労働部長が本講座の概要を説明しました。また、藤本康二 内閣官房内閣審議官(健康・医療戦略室 次長)を講師にお招きし、医療機器開発における技術者育成政策や今後の展望などをご講演いただきました。



講演を聴く受講生の皆さん

「平成27年度COC事業成果報告会」を開催！

平成28年3月24日(木)、山梨県立図書館(甲府市)を会場に、平成27年度COC事業成果報告会を開催し、本学教職員・学生を含む県内外から約100名が参加しました。平成26年度に採択された「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)『山梨ブランドの食と美しい里づくりに向けた実践的人材の育成』」において、山梨県の農業分野の衰退に歯止めをかけ、自然と一体となった新たな里づくりを行うという課題の解決に、全学的に取り組んでいます。COC事業成果報告会は、島田眞路学長による開会挨拶の後、郷 健太郎地域未来創造センターCOC部門長が、「山梨大学COC事業の取組み～教育・研究・社会貢献から～」と題した平成27年度の事業報告を行いました。また、地域の課題を研究テーマとする「地域志向型教育研究プロジェクト」の採択教員6名と地域に学び、課題解決を目的とする「地域課題解決科目」を受講した学生3名が、それぞれ事業成果を報告しました。その後、研究分野、教育分野に分かれ、18の教育研究プロジェクトと9の地域課題解決科目のポスター発表が行われ、参加者はそれぞれブースを回り、プロジェクト採択教員や受講学生と熱心に質疑応答を行いました。



郷先生の事業報告



ポスター発表会場の風景

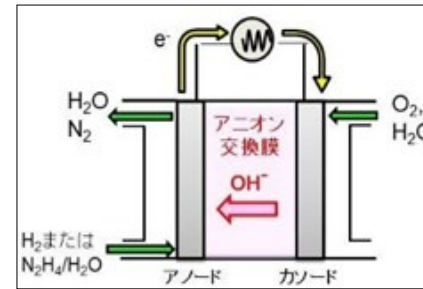
コーディネータ による【研究者紹介】

クリーンエネルギー研究センター 教授 宮武健治 (みやたけ けんじ)

今回は、クリーンエネルギーセンター所属教授の宮武健治先生を紹介致します。最初に、クリーンエネルギーセンターのご説明をいたします。当センターの目的は、クリーンエネルギーに関する研究を推進し、省エネルギー、地球環境問題の解決に貢献することとしています。2部門から構成されていまして、電気自動車用、家庭用、携帯機器用、および火力発電代替用として大きな期待が寄せられている燃料電池の高性能化と実用化を目指した基礎研究を行う「燃料電池研究部門」と、再生可能エネルギーである太陽光やバイオマスおよび地熱から水素製造、発電する研究を行う「太陽エネルギー変換研究部門」とになります。宮武先生は「燃料電池研究部門」に居られます。2012年に高分子学会日立化成賞、2013年にドイツノベーショナルワード「ゴットフリート・ワグネル賞」と「科研費審査委員表彰」を受賞されるなど数多くの受賞をされており、本学の高分子化学をリードする研究者です。近年では左の図に示されるように電気を取り出すための「アニオン交換膜」の開発を進めておられます。地域の企業様への期待としては、2次電池や電気分解など他のエネルギーデバイス分野にも展開可能な点が特徴なので、応用実装ができるアイデアについてご提案をお待ち致します。(記: 還田統括コーディネータ)



宮武先生



アニオン交換型燃料電池

新技術情報クラブ イベントほか

アカデミックサロン(第11回)を開催しました！

第11回アカデミックサロンを平成28年4月22日(金)午後4時から甲府駅北口「CAFE 風土」にて開催しました。工学域機械工学系(情報メカ)の北村敏也(きたむら としや)准教授から「機械の騒音を小さく、そして快適に」のテーマで、騒音(低周波音)の例や人への影響さらに騒音対策について講演をして戴きました。騒音対策の失敗例で、ハイブリッド車の騒音が下がった結果接触事故が増加した、騒音を下げた掃除機が吸引実感がないため売れない、がありました。資料の最後に「これからの音対策」として、①音の快適化②音のデザイン③第三者に受入れられる音量・温質の3つに纏められています。何かを作る時に、その機能や騒音を無くするだけでなく、音が周囲の人に快適さを与える積極的な設計が必要だということですね。しかし、相手が人となるとまだまだ深い課題がありそうです。



講師 北村先生



ワインと弁当で懇談

第11回アカデミックサロン風景

アカデミックサロン(第12回)を開催しました！

第12回アカデミックサロンを平成28年6月24日(金)午後4時から甲府駅北口「CAFE 風土」にて開催しました。工学域機械工学系(情報メカ)の西崎博光(にしざき ひろみつ)准教授から「人工知能の最前線」のテーマで、機械学習モデルであるニューラルネットワークとさらに進化したディープニューラルネットワーク、その応用として画像処理、音声処理、自然言語処理の例をご紹介戴きました。①人工知能(AI)とは「人間の知能の働きをコンピュータ上で人工的に実現したもの」②IT技術を背景に機械学習技術が発展し、第3次人工知能ブームに③ディープニューラルネットワーク(モデル)の大ブレイクによりディープラーニングが台頭、入力データの特徴を自動的に捉えることから判別精度が向上した。しかし、AIは万能ではないと忠告もありました。AIを装備したロボットが参政権を要求する様になったら怖いですね。

当クラブ、アカデミックサロンが新聞で紹介されました！

新技術情報クラブおよびアカデミックサロンが、山梨日日新聞で紹介されました。当クラブの活動を広く知って貰い注目されることは、私共にとって大きな励みであり有難いことです。その記事を要約しご紹介致します。

【3月17日 木曜日 経済】「産学 気軽に研究交流」「山梨大がサロン」「経営者ら最新技術学ぶ」

山梨大が研究者と県内の企業経営者をつなぐ小規模の交流会「アカデミックサロン」を開いている。参加費はコーヒー代のみ。大学側は研究内容を広く知ってもらい、経営者は気軽に研究者に相談でき、双方にメリットがある。

【5月15日 日曜日 総合・時評】「大学と企業 膝を突き合わせて 還田隆 山梨大准教授」

地域企業・自治体との連携では大学の「敷居の低さ」を創出する努力をしてきた。アカデミックサロンは14年6月に開始、カフェの小さなスペースで研究者と企業等が膝突き合わせた情報・知恵の交流を目指している。お弁当や雑談も含め研究者の人となりに触れ話が盛り上がる。その中からビジネスチャンスが生まれ大学の知恵が生きると考える。



講師 西崎先生

第12回アカデミックサロン風景